

現代経営学演習（8単位）

担当教員：音川 和久

otogawa@kobe-u.ac.jp

I 演習の目的

現代経営学演習では、「研究に基礎をおく教育(Research-based Education)」というコンセプトに基づいて、修士論文（専門職学位論文）の作成に関する研究指導を行います。修士論文では、学界に対する貢献やアカデミックな厳密性が求められますが、専門職学位論文では、それらに加えて、実務に対するインプリケーションが強く求められることとなります。演習では、各自が日常業務の中で抱いた問題・課題について、アカデミックなアプローチに基づく調査・研究を行い、その成果を専門職学位論文としてまとめるための指導・助言を行います。こうした一連のプロセスは、当座の課題を解決するだけの即効薬を手に入れる機会というよりもむしろ、その他の幅広い課題にも応用できる論理的な思考方法を身につけるための有意義な機会と考えています。

各自が所属する組織の問題は、戦略、人事、組織、マーケティング、ファイナンス、情報、組織間関係、ガバナンス、社会環境など多岐にわたります。また、1つの課題が解決できても、別の新たな課題がその後で生じます。さらに、アカデミックなアプローチも、ケース（事例）分析、インタビュー、アンケートや実験を通じて研究者がデータを集めて、自身の仮説を検証する場合もあれば、第3者が収集・加工したデータベースを用いて、研究者が構築した自身の仮説を検証する場合もあるなど、多様な研究方法があります。専門職学位論文を作成するにあたっては、各自が特定の課題を設定し、特定のアプローチを用いて調査・研究することになります。しかし、すぐそばには、自分とは異なる課題を、自分とは異なる研究方法を用いて調査・研究に取り組むゼミの仲間がいます。演習では、こうしたゼミの仲間の研究報告に関しても積極的にディスカッションへ参加し、ゼミの仲間と切磋琢磨しながら、その他の課題・研究アプローチについても仮想体験する場としてください。そのような体験は、将来、別の課題に直面したときに、別の理論やアプローチを用いて解決策を探ることのできる柔軟性につながるはずです。

II 今年度の目標

専門職学位論文は、純粋な学術論文に比べて、実務に対するインプリケーションが強く要求されますが、それでも問題意識、研究課題、研究仮説、先行研究、研究方法、分析結果、ディスカッション、結論と将来の課題など、学術論文としての体裁を兼ね備えている必要があります。

今年度中（2017年3月まで）には、① [研究テーマ×研究方法] といった次元で表現できる研究上の立ち位置（ポジション）を決める、②ベースとなる研究論文（先行研究）を探し出す、③具体的な検証仮説を構築する、④仮説の真偽を検証できる（かつ説得力のある）証拠を得るためのリサーチ・デザインを設計し、その作業に着手していることを目指します。下記のスケジュールが示すように、2017年4月以降のM2生のスケジュールはかなりタイトです。M1生の段階から先を見据えて、各自の調査・研究に対する主体的な取組を期待しています。

Ⅲ スケジュール

学年	年月日	時間	テーマ	詳細
M1	2016年 09月03日	①②	オリエンテーション、各自の研究テーマや問題意識を共有する。	下記の欄外を参照し、事前準備をしてください。
	2016年 09月24日	①②	経営学の研究方法について考える。	以下の文献を取り上げながら、経営学の研究方法について検討します。 ・田村正紀. 2006. 『リサーチ・デザインー経営知識創造の基本技術』白桃書房. (各自で購入してください) ・Oler, D. K., and W. R. Pasewark. 2016. How to Review a Paper. <i>Issues in Accounting Education</i> 31 (2): 219-234. ・Cook, K. A., M. Hart, M. R. Kinney, and D. K. Oler. 2016. How to Discuss a Paper: Developing and Showcasing Your Scholarly Skills. <i>Issues in Accounting Education</i> 31 (2): 211-218.
		③④⑤	修士論文報告会（ポスター・セッション）に参加する。	M2 生の研究内容はもちろん、研究のプロセスについても、積極的に質問・意見交換して、これから1年間の自分の姿をイメージしてください。
	2016年 10月15日	③④⑤	過去のMBA（優秀）論文を検討する。	2人（ないし3人）のグループ単位で過去のMBA（優秀）論文を1本取り上げて、その内容を批判的に検討します。
	2016年 11月05日	③④⑤	各自の研究のベースとなる先行研究を決める。	これから研究を進める上でベースとなる先行研究（できれば最新かつ海外文献）を各自で検索し、その内容を報告してもらいます。
	2016年 12月10日	①②	これからの研究スケジュールを固める（見つめ直す）。	各自の研究テーマや研究方法について報告を行うことにより、これからの研究スケジュールを具体的に固める、もしくは研究スケジュールの練り直しを行います。
	2017年 02月04日	①②③ ④⑤	各自の研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行う。	この作業は、2017年4月以降の土曜日（午後）も繰り返し、専門職学位論文を仕上げていきます。
	2017年 03月04日	①②③ ④⑤	各自の研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行う。	
M2	2017年05月		副指導教員決定	
	2017年06月		専門職学位論文題目提出	
	2017年07月		卓越論文候補中間公開発表会	
	2017年08月		専門職学位論文提出	
	2017年09月		修士論文報告会（ポスター・セッション）	

2016年09月03日 オリエンテーション、各自の研究テーマや問題意識を共有する。

この日は、現代経営学演習の初日になりますので、ゼミの進め方等についてオリエンテーションを行います。そして、自己紹介を兼ねて、各自がどのような問題意識を持ち、どのようなテーマの研究を行いたいのかについて、10分程度（質疑応答を含む）で報告してもらいます。また、9月24日午前の分担と10月15日のグループ分けも行います。

事前準備: 研究テーマ（暫定的なタイトルまたはキーワード、研究目的）、問題意識（なぜ、そのテーマを取り上げようと考えているのか、その重要性など）、先行研究（現時点で把握していれば）、現時点での仮説（研究を通じて明らかにしたい事柄）、分析方法（どのような研究アプローチを採用するのか）などを記載した研究計画書をA4一枚にまとめ、プリントアウトしたもの（全員分）を持参してください。

IV 成績評価の方法

成績評価の基本は、完成した各自の専門職学位論文の内容です。しかし、ゼミへの出席（毎回の出席が基本です）およびディスカッションへの貢献も含めて総合的に評価します。

V 参考書

研究方法に関する文献としては、以下の書物などがあります。

- ・伊丹敬之. 2001. 『創造的論文の書き方』 有斐閣.
- ・田尾雅夫・若林直樹. 2001. 『組織調査ガイドブック』 有斐閣.
- ・盛山和夫. 2004. 『社会調査法入門』 有斐閣.
- ・G. キング・R. O. コヘイン・S. ヴァーバ（著）・真淵勝（監訳）. 2004. 『社会科学のリサーチ・デザインー定性的研究における科学的推論』 勁草書房.
- ・M. スミス（著）・平松一夫（監訳）. 2015. 『会計学の研究方法』 中央経済社.

音川のこれまでの研究内容を知りたい場合は、以下の書物などをご覧ください。

- ・音川和久. 1999. 『会計方針と株式市場』 千倉書房.
- ・P. ブラウン（著）・山地秀俊・音川和久（訳）. 1999. 『資本市場理論に基づく会計学入門』 勁草書房.
- ・須田一幸（編著）. 2004. 『会計制度改革の実証分析』 同文館出版（分担執筆）.
- ・須田一幸・山本達司・乙政正太（編著）. 2007. 『会計操作ーその実態と識別法、株価への影響』 ダイヤモンド社（分担執筆）.
- ・須田一幸（編著）. 2008. 『会計制度の設計』 白桃書房（分担執筆）.
- ・音川和久. 2009. 『投資家行動の実証分析ーマーケット・マイクロストラクチャーに基づく会計学研究ー』 中央経済社.
- ・桜井久勝（編著）. 2010. 『企業価値評価の実証分析ーモデルと会計情報の有用性検証』 中央経済社（分担執筆）.
- ・桜井久勝・音川和久（編著）. 2013. 『会計情報のファンダメンタル分析』 中央経済社.